

自己研鑽のために技術士の取得を

— 技術士（建設部門：都市及び地方計画） —

1. 受験の動機・経緯

技術士を目指すきっかけは、前職の鉄道会社時代まで遡ります。制度の詳細は割愛しますが、鉄道分野では、鉄道施設の設計確認の責任者である設計管理者の要件に「技術士」があり、土木系職員は、技術士を目指し、それぞれの専門分野で高い技術力をもって日々研鑽していました。

このため、技術士は技術者として一人前の証、土木施設に係る調査・設計・施工を監理する身として、必要なものと強く認識し、取得を志しました。

現在、職場・分野は違いますが、土木技術者として、上記の志は変わりません。また都市分野では、技術士法第47条の2「技術士の資質向上の責務」が特に重要だと思います。都市の課題、政策は時代の変遷とともに変化します。論文問題もその時期の重要なテーマが課題になることが多いようです。例えば、近年では立地適正化計画、都市のスポンジ化、街路空間再構築・利活用、Park-PFIなどでしょうか。このように更新される課題、政策をキャッチアップし、業務に活かすために、常に知識及び技能の水準を向上させ、資質向上に努めることが重要となります。私の知る限り土木系公務員の業務に、技術士を要件とするものはありませんが、

自分の住むまちをより良くするため、自己研鑽のためにも、技術士の取得を目指しては如何でしょうか。

2. 筆記試験における傾向と対策

2019年度の試験（新試験）から、試験方法が変わるようですので、私の受験した2017年度試験（旧試験）で、参考になりそうなことを中心に記載します。

旧試験では、筆記試験は、選択式（必須科目）と記述式（選択Ⅱ、Ⅲ）に分かれていましたが、新試験では、すべてが記述式になるようです。

旧試験では、技術部門全般にわたる専門知識は、選択式で、国土交通白書から出題される傾向にありました。白書はじっくり読み込み内容を覚えるのは困難と思いますので、私はスマホ、タブレットで読める状態にして、移動時間など、隙間の時間に読んでいました。新試験になり、過去問がありませんので、考えられる対策は前述のように建設部門全般の専門知識の習得に努めることと、後述の記述式の対策だと思います。

記述式では、2つの対策が必要です。1つは、出題される都市及び地方計画分野の専門知識を習得することです。キーワード（2018年度試験は、線引き制度、LRT、地区計画など）の

概要を問う設問と制度（2018年度試験は、市街地整備手法、立地適正化計画）の運用（応用能力、問題解決能力、課題遂行能力）についての設問があります。知識習得については、実務で関わるのが一番です。実務に関わっていない場合は、都市計画関連の業界紙、毎年4月に行われる全国都市計画主管課長会議資料、HPに公表される制度改正資料などで、最新の情報を確認した上で、研修などを受講し、最近の動向や基礎的な制度の知識習得に努めましょう。

2つ目は、限られた時間、文字数で解答を簡潔に、まとめる力を鍛えることです。日々できる対策は、業務文書を短い時間、文字数でまとめることです。技術士の先輩職員がいる場合は、過去問の解答を手書きで作成し、添削してもらうと良いと思います。手書きに慣れ、文字数と記述できる内容量の関係が掴めます。

3. 口頭試験における傾向と対策

口頭試験で主に聞かれた内容は、申込書に記載した業務内容の詳細（技術士としての実務能力）と、3義務2責務（技術士として適格性）でした。行った対策は、「業務内容の詳細」は、概要、役割、課題、自分の提案、成果（提出した内容も上記の構成）を簡潔に説明できるようにし、業務の報告書を読み返しました。試験では、「課題に対して、自分はどうしたらよいと思うか」というような応用能力について問われましたが、新試験では、試問事項が変更され、コミュニケーション、リーダーシップ、マネジメントについて聞かれるようです。これらの切り口で自分の業務について説明できるよう準備



小山市 都市整備部 部長

あざみ ともひで
浅見 知秀

（取得した資格：技術士（建設部門：都市及び地方計画）
資格取得年度：平成30年度）

することが必要だと思います。

更なる対策として、口頭試験の練習を職場の先輩などにしてもらいたいところです。

4. 受験者へのアドバイス等

試験対策の中でも、知識と文書作成能力は一長一短で身につくものではありません。試験受験要件を満たす前から、技術士取得を意識して、業務にあたりましょう。自分の業務成果を学会報告などでまとめることもよいと思います。

また家族や職場のサポートも不可欠です。周りに受験を宣言し、プレッシャーをかけてもらいましょう。私は、いつになったら技術士をとるのかと妻からプレッシャーを受け、家事を免除してもらい時間をもらうことで、合格することができました。感謝するとともに頭が上がらない状況です。同じ境遇になる必要はありませんが、周りの協力を自分の力にして試験に挑みましょう。